

より紹介され、精査加療目的に10月16日に当科に任意入院した。

【入院時所見】表情はうつろで会話や動作は緩慢、姿勢保持も困難で、頻回に口腔乾燥感を訴え飲水を要求した。低Na血症(Na 115mEq/l)を認めた。

【入院後経過】入院日よりせん妄を呈し、医療保護入院に切り替え、身体拘束を行った上で飲水制限と補液を行った。第7病日には電解質は正常化し、せん妄も消失し、donepezilを開始した。内科、耳鼻科を受診したが、口腔内乾燥の原因となる器質的異常は認められず、口腔乾燥感の訴えは持続した。第15病日よりmemantineの併用を行い、第20病日には、口腔乾燥感が顕著に改善し、飲水量は正常化した。Memantineの漸増と共に口腔乾燥感は消失し、第42病日に20mgまで増量し、第76病日に退院した。

【考察】本症例より、器質的異常所見が認められず口腔乾燥感をきたす症例にmemantineが有効である可能性が示唆された。Memantineが効果を示した要因として、認知機能及び周辺症状の改善、血流変化の効果など様々な因子が考えられる。本症例はdonepezilを併用しており、その効果は否定できない。Memantineの作用機序や効果は未だ明らかにされていない部分が多く、今後の知見の蓄積が望まれる。

5 総合病院身体科病棟から精神科へ紹介される時の様子

～看護師のストレスについてのアンケートより～

金安 亨太・松浦 友輝・岡田奈緒子
直井 孝二・内田 訓・鈴木 康・
松田ひろし*

立川総合病院
柏崎厚生病院*

【目的】立川総合病院は病床数481床を有する総合病院で、24科ある身体科の病棟は11棟に分かれている。新潟県中越地区においては二次救急医

療機関の役割を担っている。その中で精神科は、医師は非常勤で、交代制で「ストレス外来」と院内標榜した診療を行っているのみだ。そのため院内で精神症状を呈した患者さんがいたとしてもすぐに精神科医が対応することが難しい。各病棟から精神科へと患者さんを紹介されることがあるが、特に看護師は多忙な業務の中で全人的に患者さんと向き合っていく事を求められるなど、そういったところで病棟スタッフのニーズによるものも多いように感じられた。精神症状を有する患者さんへの関わりには大きなストレスが伴うと想像され、実際に病棟の看護師がどのように感じているか触れてみたいと思いアンケートを実施した。今回はその結果から、患者さんが精神科へと紹介される際の特徴に焦点を当て報告させていただきたい。

【方法】アンケートは、身体科の中でも比較的精神科に患者さんが紹介されてくることの多い5病棟(循環器内科2病棟、消化器内科、整形外科、泌尿器科や小児科等数科が含まれる病棟)の看護師を対象として実施した。①精神科に紹介する患者、②精神科を紹介するほどでないが病棟内で特別な関わりが必要と感じた患者、の2パターンについて、どのような患者さんがいるか、どのような関わりが必要となるか、どのように大変かなどを自由記述式で聞いている。全体像からは病棟でどのように困るのか、また①と②を比較することで、どのようなことが紹介するきっかけとなるのかなど見ていきたい。

【結果】アンケートは回収まで1週間と短期間で実施したが、123件(回収率85.4%)の回答を得た。入院や手術、入院の長期化といったことを契機に、不安や抑うつ状態を呈するという患者像は①②に共通して見られたが、①において特に目立つのはせん妄や認知症の悪化などによる不穏行動や夜間不眠についてだった。

【考察】看護師の、患者さんの力になりたいという思いはアンケートから垣間見ることができる。患者さんの不安やとまどいなどを傾聴し退院まで寄り添うことは大変であっても望むところでもあるのか、しかし何らかの原因でそうできない状況になると看護師にもストレスが大きく、身体科病

棟では対応しにくい状況となってしまうよう。

Ⅱ. 特別講演

向精神薬と自動車運転

医療法人社団輔仁会田崎病院 副院長

東京医科歯科大学 名誉教授

松浦 雅人
